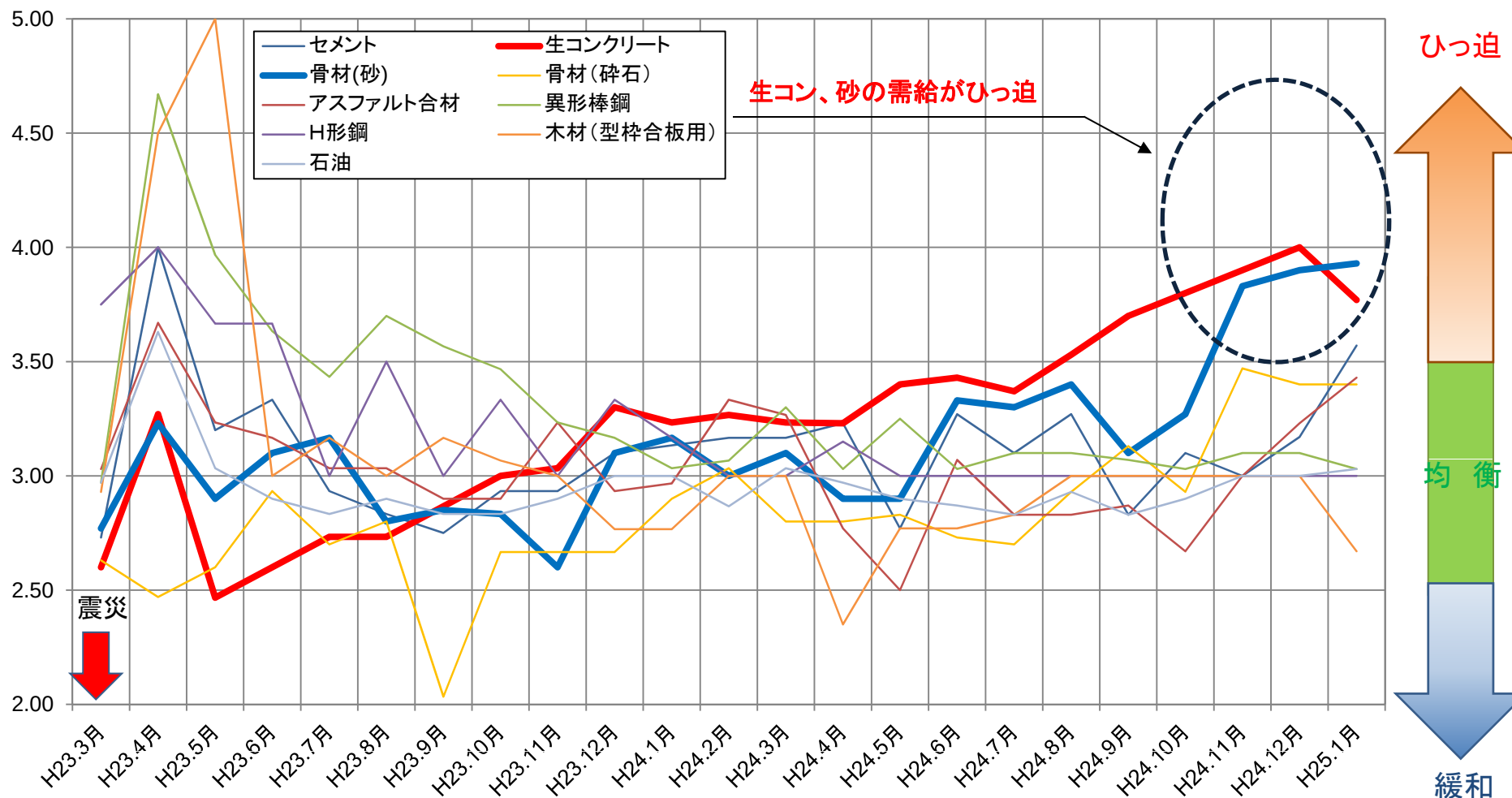


被災地における建設資材の需給状況

○生コンクリートと骨材(砂)の需給がひっ迫

被災3県における主要建設資材の需給動向



※数字は、モニターから得た回答「緩和」「やや緩和」「均衡」「ややひっ迫」「ひっ迫」を1～5点とし、全モニターの回答を平均したもの
出典：主要建設資材需給・価格動向調査(国土交通省)

生コン不足への対応

課題

生コン不足の原因 → 生コン原材料(砂)と生産設備(プラント)の不足

これまでの対応

- コンクリート二次製品や代替資材への**転換**
- 生コン**プラント**不足への対応
 - ・生コンプラントの増設(生コン工業組合等)
 - 4基設置(見通し含む)
 - ⇒ 供給可能量が15,000m³/月拡大
 - ・大量に生コンを使用する**港湾・漁港工事**における**専用プラント**の設置
 - 仮設プラント2基、ミキサー船12基稼働(見通し含む) ⇒ 供給可能量が10,000m³/月拡大
- 原材料(砂)**不足への対応
 - ・海運等による地域外からの調達
 - 55,000m³/月(生コン換算:98,000m³/月※)
 - ※H23年度生コン月平均出荷量の78%に相当



コンクリート二次製品の設置状況



ミキサー船

今後も不足が見込まれるため、**更なる対策が必要**

今後の対応の方向

原材料

- 海運により調達する砂の**荷揚げ施設、ストックヤードの拡大**

生産設備

- 民間プラントの更なる誘致**
- 公共発注者が、公共工事向け**専用プラントを確保するためのスキーム(不足する原材料は域外からの調達を想定)**を設定し、その実現に向けて関係者との調整を進める。

【背景】

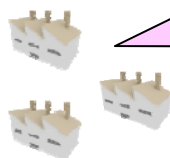
- 震災後約2年間に、**民間によるプラント設置は4基のみ**。
今後の建設や、域外からの原材料調達に向けた動きも限定的。
- このままでは、生コンの供給が一層遅延し、**復旧・復興に大きく影響する恐れ**

事業の遅延防止の観点から、**公共工事に供給する生コン※の一部を発注者自らの対策で確保**せざるを得ない

※既存プラントの供給能力を超過する部分を想定

現状

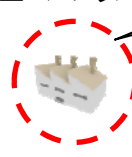
既存プラント



生コンが不足し、公共工事、民間工事とも遅延

今後

公共工事向け生コンプラント



公共工事の円滑な施工

需給ひっ迫や出荷遅延が緩和



既存プラント